

第1回天塩川上流減災対策委員会

～「新たなステージ」に対応した防災気象情報の改善～

「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」

平成28年5月31日
旭川地方气象台

「警報級の可能性」など新しい気象情報の提供に向けて

気象庁では、平成27年7月の交通政策審議会気象分科会提言「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方を受け、気象警報等に関連する以下の情報について、平成29年度出水期を目途に提供を開始する計画です。

①「危険度を色分けした時系列」

警報級や注意報級の現象が予想される期間を色分けした、時系列の表形式による情報

②「警報級の可能性」

「明日まで」及び「明後日以降」の警報級の現象となる可能性を「高」や「中」で伝える情報

提供開始までのスケジュールは以下のとおり予定しています。

・平成28年度出水期には、自治体等関係機関に試験的に御覧いただき、その御意見を踏まえつつ、情報の効果的な利用方法や気象庁ホームページにおける表示などを検討し、準備を進めます。

・平成29年度出水期を目途に、情報の発表を開始するとともに、気象庁ホームページでの提供を開始します。

大雨等の危険度を時系列で視覚的に分かりやすく表示します

～危険度を色分けした時系列～

(平成29年度から)

現状

気象警報・注意報には、「警報級の現象が予想される期間」、「注意報級の現象が予想される期間」、雨量や潮位の「予想値」等が記述されているが、受け手が危険度や切迫度を認識しづらい。

計画

これまで文章形式で提供してきた「警報級の現象が予想される期間」等を、危険度に応じて色分けした時系列の表形式により視覚的に把握しやすい形で提供。(平成29年度から)

現状

平成 x x 年 x 月 x 日 1 1 時 x x 分 x x 気象台発表

文章形式

x x 市 [発表] 大雨(土砂災害、浸水害), 洪水警報
高潮注意報
[継続] 暴風, 波浪警報

土砂 警戒期間 13日夕方から 14日未明まで
注意期間 13日昼過ぎから 14日明け方まで
浸水 警戒期間 13日夕方から 13日夜遅くまで
注意期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
雨のピークは13日夜のはじめ頃
1時間最大雨量 80ミリ

洪水 警戒期間 13日夕方から 14日未明まで
注意期間 13日昼過ぎから 14日明け方まで
風 警戒期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
注意期間 14日昼前にかけて 以後も続く
ピークは13日夜のはじめ頃
陸上 最大風速 25メートル
海上 最大風速 30メートル

波 警戒期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
注意期間 14日昼前にかけて 以後も続く
ピークは13日夜のはじめ頃 波高 8メートル

高潮 警戒期間 13日18時頃から 13日24時頃まで
注意期間 13日15時頃から 13日24時頃まで
ピークは13日18時頃 最高潮位 1.8メートル

(警戒が必要な期間と、ピーク量・時間帯のみを記載。)

防災情報提供システムでは平成28年度から試行表示

改善後

平成 x x 年 x 月 x 日 1 1 時 x x 分 x x 気象台発表

時系列の表形式

x x 市 [発表] 大雨(土砂災害、浸水害), 洪水警報
高潮注意報
[継続] 暴風, 波浪警報

		今日					明日			
		9-12	12-15	15-18	18-21	21-0	0-3	3-6	6-9	9-12
雨量(mm)		10	30	50	80	50	30			
大雨	(浸水害)									
	(土砂災害)									
洪水										
風	陸上(m/s)	15	20	20	25	20	20	15	12	12
	海上(m/s)	20	25	25	30	25	25	20	15	15
波浪(m)		4	6	6	8	6	6	4	4	3

今後の危険度の高まりを即座に把握できる!

早い段階から警報級の現象になる可能性を「高」や「中」でお知らせします ～警報級の可能性～

(平成29年度から)

〇〇県南部の警報級の可能性

イメージ

南部では、4日までの期間内に、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。
また、4日明け方までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

今日～明日
・天気予報と合わせて発表
・時間帯を区切って表示

明後日～5日先
・週間天気予報と合わせて発表
・日単位で表示

〇〇県南部		8/3 17:00発表					8/3 17:00発表			
		3日		4日			5日	6日	7日	8日
		明け方まで		朝～夜遅く						
種別	18-24	0-6	6-12	12-18	18-24					
大雨	警報級の可能性	中		—			—	—	中	—
暴風	警報級の可能性	—	高			—	中	高	—	
波浪	警報級の可能性	—	高			—	中	高	—	

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況。
[中]: [高]ほど可能性が高くはないが、警報を発表するような現象発生可能性がある状況。気象台が発表する今後の情報に留意。

今日～明日

前日の夕方の段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

明後日～5日先

数日先の荒天について可能性を把握することができる！

「警報級の可能性」を含む防災気象情報の活用方法

防災気象情報は、早め早めの防災対応の判断に活用いただけるよう、危険度の高まりに応じて順を追って段階的に発表しています。

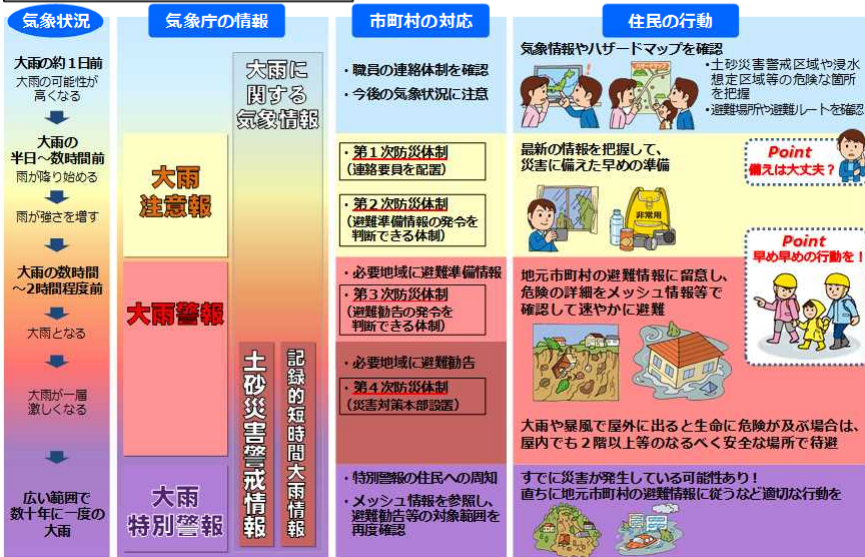
■ 段階的に発表される防災気象情報の活用

- まず、負担の小さな対応・行動から実施していただき、危険度の高まりに応じて段階的な強化をご検討ください。
- 急傾斜地は土砂災害、周辺より低い地区は浸水害等、自分の住んでいる場所が持っている災害リスクに応じて、段階的に強化が必要な内容・スピードは異なります。

■ 分かりやすくなった表示の活用

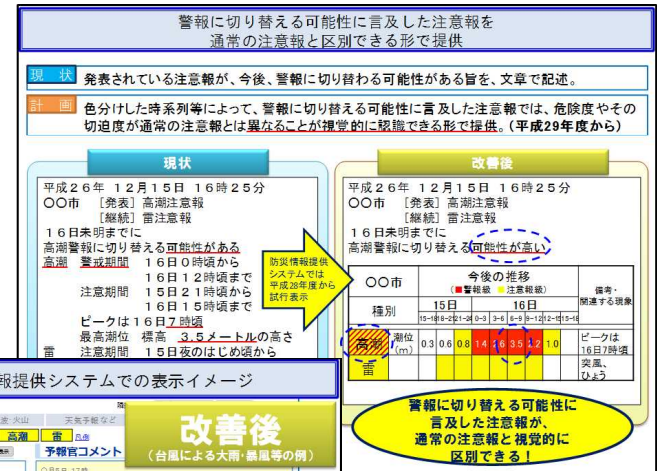
- これまで注意報のどこに記述されているのか分かりにくかった 警報発表の可能性を視覚的に分かりやすく表示
- 時系列で危険度を色分けした分かりやすい表示

標準的な活用イメージ(大雨の場合)



■ 類似例(「竜巻注意情報」の利活用)

- 積乱雲の近づく兆しに留意し、その兆しがある場合には頑丈な建物内へ移動。(まずは、負担の小さな対応・行動から・・・という利活用)
- 人が多く集まる屋外行事や高所作業のように、安全確保行動をとるためにある程度の時間を要する状況では、万々に備え、早めの避難開始。



平成28年度以降の防災情報提供システムでの表示イメージ

